

理事長メッセージ

日本フロアホッケー連盟設立から11年。昨年10周年を迎えて以降、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催という追い風も受け、今まで以上に普及が進んでいることを実感する一年でした。これも日頃からご支援・ご協力をいただいているたくさんの方々のおかげと心から感謝しております。

本アニュアルレポートのご挨拶では毎年ご紹介しておりますが、この場をお借りしてフロアホッケー連盟の成り立ちについてお話しておきましょう。2005年に開催した『スペシャルオリンピックス(以下SO)冬季世界大会・長野』で、皇太子殿下並びに安川英昭大会実行委員長から「この大会をきっかけとして、知的障がいのある人々の社会参加が進み、誰にも開かれた、温かみのある社会が創造されることを希望します」とのご挨拶を受け、必ずそのような社会を実現する! と設立したのが、日本フロアホッケー連盟でした。もともとはスペシャルオリンピックス独自の競技だったフロアホッケーを、知的障がい者のスポーツとして限定することなく、すべての人が共に楽しむ「ユニバーサルスポーツ」として広く一般に普及し、年齢・性別・障がいの有無などの違いを超えた交流を通じて、相互理解を推進し、「インクルージョン(=包み込む)社会」を実現しようと活動を続けております。

最近では障がい者スポーツに対する関心も高まり、「誰もが共に楽しめるユニバーサルなスポーツ」として、私どものフロアホッケーについても、体験会のご依頼やお問合せをいただくことも増えてまいりました。特に今年度は、山形県・長野県・熊本県に続き、大分県、東京都と2つの地区支部組織が新設され、これらを拠点として今後さらに新しい地域に活動の輪が広がると大いに期待しております。また山形連盟では、支部組織としては初めて独自のホームページを開設し、地元の身近な活動の情報発信をスタートしました。ホームページやSNSなどを大いに活用し、普及の輪を拡げていくこともこれからは不可欠だと思います。山形県を中心として、東北ブロックにも活動が広がっていくきっかけになると、これからはとても楽しみにになりました。

現状に満足することなく、いつも前進と拡大に取り組む気持ちを持ち続けないと、活動は衰退してしまいます。関わる皆さまの一人おひとりがその気概を持って、競技の普及とその根底にある「インクルージョン社会実現」という目標に向かって、一層のご尽力をいただきたいと心よりお願い申し上げます。

毎年全日本競技大会、関東甲信越・中国四国・九州でのブロック大会、県連主催の県大会やジュニアの大会、大小たくさんの方々大会が開催され、それを楽しみに日々練習を重ねている選手が全国各地におられることでしょう。フロアホッケーは地域の絆の創生に寄与し、また障がいの有無に関係なく、お互いのありのままを認め合う、温かな交流を生み出す素晴らしいスポーツです。さまざまな違いを超えた交流こそがインクルージョン社会を創る原動力! 誰もがいきいきと笑顔で輝く毎日の実現を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

引き続き皆さまの温かなご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



— 特定非営利活動法人
日本フロアホッケー連盟
理事長 細川 佳代子